



受験生の皆様 | 在学生の皆様 | 卒業生の皆様 | 教職員専用

国際関係学部 ホーム > 新着情報 > インドネシアの小学生にパソコンを寄贈(特派員: Shoma)

## インドネシアの小学生にパソコンを寄贈(特派員: Shoma)

いいね! ツイート

【2015年10月10日】

インドネシアの首都ジャカルタで、日本人向けに発行されている、日刊「じゃかるた新聞」2015年9月21日付けは、「パソコン3台役立てて中部大、2合唱団が寄贈」と、中部大生とジャカルタの二つの合唱団が、20日に貧困地域の子どもたちにパソコン3台を寄贈したことを報じました。

私たち青木研究室は、昨年10月25、26日に名古屋市栄のオアシス21で開催された、官民合同による中部地域最大の国際交流・国際協力・多文化共生フェア「ワールド・コラボ・フェスタ2014」にブースを出展しました。テーマは「東南アジアを知ろう」で、インドネシア研修の報告やベトナム大学生の本学訪問などをパネルにして紹介しました。合わせて、インドネシア研修で購入してきた民芸品を販売した結果、売上金は33,500円となり、ゼミ生とOB・OGの寄付金を合わせて総額5万3千円が集まりました。

当初から、この収益金をインドネシアの教育支援に役立てたいと思っていましたが、寄付先は具体的には決まっていませんでした。

そのため、青木先生がインドネシアを訪れた際に、じゃかるた新聞の当時の臼井編集長と中村社主にお話し、寄付先を探していただくことにしました。

イベントから約1年、ジャカルタから私たちの寄付金が、ジャカルタ在住の日本人の方たちで構成される、混声合唱団ジャカルタ・サザンクロスと男声合唱団ジャカルタ・メールクワイヤーが支援されている、貧困層の子どものための学校「アル・ファラー」にノートパソコン3台が寄贈されるという報告を受けました。

パソコン費用は960万ルピア。そのうち青木ゼミの負担分は623万7千ルピアで、足りない分をサザンクロスとメールクワイヤーの方々が充ててください、パソコン3台を「アル・ファラー」に寄贈することができたのです。

後日、じゃかるた新聞の記事のコピーと、「アル・ファラー」からの感謝状が届きました。



貧困地域の子どもへの支援というと、ノートや鉛筆の方が多くの子どもに喜ばれると思われる方もいらっしゃると思います。しかし、これからの時代、インドネシアの小学校教育でもパソコンは必需品です。子どもたちの教育に少しでも力になればうれしいです。



## ワールド・コラボ・フェスタに出展

国際関係学科 教授 青木澄夫



### ■ワールド・コラボ・フェスタへの出展

2004年度から開始した海外研修は13回を数え、私が海外で学生と共に過ごした期間は200日を超える。愛・地球博を契機に始まったワールド・コラボ・フェスタへの参加は、研修に参加したゼミ生のお世話になった現地の人々への感謝の気持ちから始まった。

2014年10月25・26日、名古屋市栄のオアシス21で、官民合同による中部地域最大の国際交流・国際協力・多文化共生フェア「ワールド・コラボ・フェスタ2014」が開催された。青木研究室は2009年から3年間参加し、バザーの売上金にゼミ生とOB・OGの寄付金を加え、タンザニアの小学校に机とイスを寄贈してきた。

今年はインドネシア研修の参加者を中心に「東南アジアを知ろう」をテーマに、インドネシア研修の成果やベトナム大学生の本学訪問などを紹介し、インドネシア・グッズの販売を行った。企画から実施まで、研修に参加できなかったゼミ生たちも加わり、不慣れな3年生には4年生がアドバイスした。参加大学は以前はわが研究室だけだったが、今では愛知県立大学や愛知教育大学とも統合する。国際協力・交流の関係者や他大学の教員が立ち寄っては鼓舞してくれるのもゼミ生には刺激だ。

ゼミ生にとっては初めてづくしのフェスタだが、達成感とゼミ生間の絆の強まりは何物にも替え難いものだという。バザーの売上金はインドネシアの教育支援のために寄付する予定だ。

今まで、このページや青木先生による「アンテナ」での紹介などで、寄付のことに触れてきましたが、これようやく、私たちはチャリティ・バザーについての「説明責任」を果たすことができました。ご協力いただきましたみなさんに、感謝とともにご報告いたします。私たちは、これからもイベントなどを通じて支援にかかわっていきます。

いいね！ ツイート



[↑ ページの先頭へ](#)